情報発信の取組 1 ●広報紙

被災地以外からは、なかなか知ることができない復興の「いま」を知ってほしいという想いから、
宮城県は2016年5月から「震災復興発信プロジェクトNOW IS.」を展開しています。

広報紙 NOW IS.

**月1回、県内各地の
復興の「いま」を発信しています。**

著名な方とともに被災地域を歩くインタビュー企画を巻頭特集として、県内の復興状況や、復興に向けた取組等を紹介する広報紙を毎月11日に発行しています。公共施設を中心に無料で配布しているほか、Webサイト（みやぎ復興情報ポータルサイト）にも掲載しています。

対談

地域の復興を盛り立てるキーパーソンと、巻頭を飾る著名人が、それぞれの想いを語りあう対談ページ。会話から垣間見える「当時」と「いま」の想いを特集します。

応援

復興業務をサポートするために、全国の自治体から宮城に派遣されている応援職員を紹介。宮城県から北海道胆振東部地震の被災地支援に派遣された職員のインタビューも。

防災

東日本大震災後に生まれた、様々な防災や減災の取組・教訓等を未来に繋ぐため、最前線で奮闘する人々の声を紹介しています。生活に活かせるヒントが隠れています。

NOW IS. みやぎのタカラ

Treasures of Miyagi

宮城県が得た震災の教訓や道筋は、未来に役立つ宝に育ちつつあります。
「みやぎのタカラ」として、この地で生きる人々の想いとともに発信しています。

FILE No.1 気仙沼市 | 唐桑御殿つなかん

女将 菅野（かんの） 一代（いちよ）さん

**唐桑漁師の心意気が詰まった御殿。
新しい唐桑の発信基地に。**

唐桑御殿とは、遠洋マグロ漁の漁師たちが競うように建てた豪華な家のこと。「唐桑御殿つなかん」は、そんな「御殿」を活用した民宿です。以前は牡蠣の養殖を営む菅野家の自宅でした。震災で全壊したものの、多くの支援を受けて再建し、民宿としてスタート。「つなかん」は、ボランティアで唐桑に通っていた若者たちがつけた名前で、地域の名前「鮪立（しびたち）」の「鮪（まぐろ）」を英訳したTuna（つな）と、菅野さんの「かん」を組み合わせたものです。

女将の菅野一代さんは、震災後、海難事故で夫と娘、息子を失います。一時は休業しますが、「つなかんにまた行きたい」「一代さんに会いたい」という多くの声に励まされ、再開。今は、外国人観光客への対応という新たな挑戦をしています。

敷地内には、移動式のかわいいサウナや、見晴らしのいいツリーハウスも。唐桑の海と文化をまとめて楽しめる民宿です。

FILE No.2 亘理町 | WATALISの「FUGURO」

株式会社WATALIS 代表取締役 引地（ひきち） 恵（めぐみ）さん

**地元の女性が手作り。
縁をつなぐ巾着袋。**

古い着物の生地を使い、亘理町に住む女性たちが手作りしている巾着袋の「FUGURO」。「お礼やお祝いの品は、着物などの生地で作った袋に入れて持っていく」という亘理エリアの古い風習が土台となって生まれた商品ですが、最近では、モダンな巾着袋以外にも、ワインのボトルケースや髪留め、キーマスコット、テディベアなどさまざまな商品が生まれています。

「FUGURO」を制作しているWATALISは、2013年に一般社団法人としてスタートし、2015年に株式会社に。当初は、なりわいを失った〝お母さんたち〟が、コミュニティの維持も兼ねて、おしゃべりしながら手作りしていましたが、現在は、社員やパートとして40～60代の女性を10人ほど雇用し、縫製を行っています。

コミュニティ支援の取り組みも継続して行っています。「街なかで気軽に集まれる場を！」と、2016年にはギャラリーを兼ねたカフェ「中町カフェー」をオープンしました。

FILE No.3 松島町 | 松島パークフェスティバル

松島パークフェスティバル実行委員会

手作りのフェスがまちを巻き込み、拡大。

松島パークフェスティバル実行委員長の新田一修さん、同じく副実行委員長の佐藤達哉さんら、地元の有志が2015年に立ち上げた音楽フェス。当時閉鎖したばかりだった「マリンピア松島水族館」の跡地で、7組のミュージシャンのライブからスタートしました。

2019年は、5月25日、26日の2日間にわたって、170組のミュージシャンが出演。ステージは沿岸部のさまざまな場所に散らばり、瑞巌寺本堂をはじめ、五大堂、雄島、芝生広場など、松島のあちこちで音楽が鳴り響きました。プロのミュージシャンはもちろん、地元の高校生が音楽を披露するステージもあり、町内外から1万人以上の人々が集まりました。

町内の人々や店舗との連携も進み、今年は松島のマルシェ「まつの市」ともコラボ。飲食店や観光スポットを巡るスタンプラリーも実施し、音楽とともに松島のまち全体を楽しめるイベントに成長しました。

FILE No.4 名取市 | かわまちてらす閖上

株式会社かわまちてらす閖上

交流人口を増やしたい。活性化のための第一歩に。

オープンから半年足らずの商業施設「かわまちてらす閖上」。仙台市を中心に、各地から多くの人々が訪れる人気スポットになりつつあります。

「かわまちてらす閖上」に出店するのは、カフェやレストラン、水産物販売店、青果店など23店舗。将来的には27店舗の出店を目指します。特徴は、震災前から閖上にあった商店以外の店も多いこと。地元商店は6店舗で、17店舗は、仙台市や宮城県県南エリア、福島県などに母体を持っている企業。地元資本だけにこだわらず、観光スポットとして魅力ある場所をつくりたいという想いがこもっています。

名取川を眺めながら食事できるカレー店やカフェは、若者や家族連れの利用も多数。閖上の水産物を扱う店や蒲鉾店からは、「閖上のおばちゃん」たちの活気ある声が聞こえます。

交流人口を増やし、将来的には移り住んでくれる人が増えたら。閖上を「素晴らしいまち」にするための挑戦が始まっています。

NOW IS. みやぎのタカラ

Treasures of Miyagi

宮城県が得た震災の教訓や道筋は、未来に役立つ宝に育ちつつあります。
「みやぎのタカラ」として、この地で生きる人々の想いとともに発信しています。

FILE No.5 東松島市 | KIBOTCHA(キボッチャ)

貴凛庁株式会社

遊びながら身につく新しいスタイルの防災

津波で大きな被害を受けた旧野蒜小学校の校舎を活用した防災体験型宿泊施設KIBOTCHA(キボッチャ)は2018年7月にオープンしました。名前の由来は「希望」と「防災」、「Future(未来)」を組み合わせた造語です。

1階は地域の人たちが気軽に利用できるコミュニティフロア、2階は伝承コーナーやプレイルームなどがある防災学習施設、3階は個人旅行でも研修でも使える宿泊施設になっています。プレイルームは、子どもたちが体を使って遊べる遊具がずらり。「震災直後に被災地に来た時、ストレスをためている小さな子どもたちにたくさん出会いました。天気や環境に気兼ねなく、思い切り遊べる場所をつくってあげたいと思ったんです」と代表の三井さん。開館から1年がたち、プレイルームの常連になる親子連れも増えたそう。社内研修などでの利用や視察も多く、防災を学ぶ施設としてのモデルケースになりつつあります。

FILE No.6 南三陸町 | 戸倉っこかき

南三陸町戸倉地区

起死回生の物語を背負う

環境に配慮した養殖業者が取得できる国際認証「ASC認証」を、2016年に日本で初めて取得し、それを維持し続けている戸倉の牡蠣養殖。かつての海は牡蠣にとって、とても悪い環境だったという戸倉地区は、今、日本の養殖業界が注目する場所になりました。

現在に至るまでの努力と経験は特筆すべきものですが、牡蠣自体の品質も三陸トップクラスになりつつあります。栄養価が高く、良好な環境の下で育つ牡蠣は、通常2~3年かかるところをわずか1年で出荷できる大きさに。1年物の若い牡蠣なので身はプリっと引き締まり、噛むと濃厚で爽やかなコクを感じることができます。

1年物の殻付き牡蠣は、全国の大手スーパーマーケットで販売されているほか、インターネットでも購入可能。最盛期の冬以外も、春から夏にかけて味わえる牡蠣を開発中とのこと。戸倉の物語を感じながら、三陸の海のおいしさを体感してみてください。

FILE No.7 気仙沼大島 | 野杜海(のどか)

合同会社 野杜海

芝生から海を眺めて「のどか」に過ごす

2019年7月、気仙沼大島大橋の開通に湧きたつ大島に、観光集客施設が新たにオープンしました。名前の由来は、のんびりした大島の雰囲気から「のどか」と命名。漢字で「野も杜も海もある美しい大島の様子」を表しています。

カフェやダイニング、鮮魚店やスーパーなど地元の商業者が運営する6店舗が入り、工夫を凝らしたランチやスイーツなどが楽しめます。料理に使われる食材は、島で収穫された野菜や島の漁師がとってきた魚介がほとんど。その時々の「島の旬」を地元の人々の手料理で楽しめます。昔から大島に伝わってきた自給自足や譲り合いの文化を、身近に体感できるスポットができました。

2020年春には、産直施設や浦の浜湾に臨むテラス席、観光案内所などがそろう「気仙沼大島ウェルカム・ターミナル」もオープンする予定。大島観光の玄関口に完成するニュースポットに注目が集まります。

FILE No.8 女川町 | OCHACCO(おちゃっこ)

OCHACCO

東北の味と色を表現した日本茶フレーバーティー

フランスを代表する紅茶メーカーでフレーバーティーの知識を修得したオーナーが、生まれ故郷の宮城に戻って立ち上げた「日本茶フレーバーティー」の専門店。静岡の日本茶をベースに、宮城県産の果物などを取り入れた香り豊かなお茶を製造・販売しています。

人気は、三陸の海のコバルトブルーをイメージした「モノブルー」。北限の茶葉として知られる「桃生茶」をブレンドし、ブドウやブルーベリーなどの青い果実で香りをつけています。ほかにも、大崎市で育った「ささ結」の新米を使用した玄米ほうじ茶「ナンブノワール」、6種の花をブレンドした緑茶「ティーブーケ」など、さまざまなお茶を販売しています。

2018年にオープンした女川の店舗では、お茶の販売とともに、喫茶コーナーも。季節の手作りスイーツなどとともに、お茶のプロが丁寧に入れたフレーバーティーを味わうことができます。

FILE No.9 気仙沼市 | 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館

気仙沼市

目に見える証として記憶と教訓を伝える

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館は、津波で4階まで浸水した気仙沼向洋高校の旧校舎を震災当時のまま保存・公開している施設です。

伝承館では、震災直後から数カ月間の様子をパネルや映像で詳細に展示。当時のリアルなまちの様子を感じることができます。気仙沼向洋高校旧校舎は、校舎の中や屋上、中庭などを実際に歩いて見学できます。3階まで流れ着いた乗用車、押し寄せた津波の様子、冷凍工場が津波によって流され、校舎にぶつかった痕跡などが、ほとんど手を加えず、保存されています。

語り部によるガイドも実施しています(事前に予約が必要)。それぞれの語り部の記憶や想いを聞きながら、生々しい津波の傷跡を見て回ると、より当時の様子が伝わってきます。ホールに貼りだしてある、見学者からの手書きのコメントも見どころのひとつ。一人ひとりの想いが心に響きます。

FILE No.10 塩竈・野々島 | 野々島感動支援隊

遠藤 勝さん

生粋の島っ子が発信。特別な島の日常。

野々島感動支援隊は、2013年にスタートした取り組み。野々島で生まれ、島で育った遠藤勝さんが手弁当で行っています。支援隊の活動を始めた動機は、島っ子だからこそ知っている、島のちょっとした日常や美しい風景を、多くの人に伝えたいと思ったから。東日本大震災の後、島の外から来たさまざまな人に出会い、島に住んでいれば当たり前の風景が外の人にとってはとてもプレミアムなものなんだ、と気づいたのがきっかけだと言います。

感動支援隊では、島を訪れた観光客をガイドしたり、ミニクルーズの運航や、カヌー体験を行っています。冬の終わりに美しいのは、椿の木が道に覆いかぶさる「椿のトンネル」。夏には、ラベンダー畑や打ち上げ花火。カヌーは、ちょっとしたプライベートビーチのような場所で、島々を眺めながら体験できます。

目下の悩みは、隊員不足。島の魅力を共に発信していける仲間を募集しています。

FILE No.11 石巻・牡鹿半島 | ホエールタウンおしか

一般社団法人鮎川まちづくり協会

グルメや展示、買い物。多様な切り口で文化を伝える。

2019年10月にオープンした「ホエールタウンおしか」。悠々と泳ぐクジラをイメージした流線形の建物が特徴的で、テラスに出ると、鮎川浜の海を一望できます。

現在オープンしているのは、「観光物産交流施設Cottu(こっつ)」と「牡鹿半島ビジターセンター」。Cottuには、震災前に鮎川浜で営業していた飲食店3軒と、海産加工品などを扱う土産物店、クジラの骨を使った工芸品の店が入ります。牡鹿半島ビジターセンターでは、牡鹿半島の自然や人々の暮らしを、わかりやすい展示やワークショップなどで紹介。季節ごとの楽しみ方を提案しています。

続いて、被災して閉館した「おしかホエールランド」が2020年春にリニューアルオープン。クジラの骨格標本などのほか、捕鯨の文化を楽しく学べる施設になる予定です。

食事も買い物も遊びも学びも、震災前とは少し違う新しいかたちで、牡鹿の魅力を伝える施設になりそうです。

FILE No.12 石巻・雄勝 | 雄勝ローズファクトリーガーデン

一般社団法人雄勝花物語

雄勝の人々が育てる手作りのガーデン

雄勝の海沿いにある雄勝ローズファクトリーガーデンは、バラを中心としたイングリッシュガーデンです。江戸時代、雄勝から世界に出発したと言われる慶長遣欧使節団にちなんで、カリフォルニア、ローマ、スペインなどをイメージした庭が設けられています。バラのシーズンは5~6月ごろ。多彩な種類のカラフルなバラが咲き誇る風景は圧巻です。

ガーデン内には、地域の女性たちが働くカフェもあり、コーヒーやソフトクリームを味わいながら散策することもできます。近年は「北限のオリーブ」の栽培も。オーナー制度で支援者を募集する予定です。

ガーデンを中心とした「雄勝ガーデンパークプロジェクト」も動き出しています。MORIUMIUSなど、雄勝の主要な場所をつないで、まち全体をガーデンとして捉え、まちを盛り上げていこうという取り組みです。

一株の花から始まった活動は、多くの人の力を借りながら、大きく飛躍しようとしています。

情報発信の取組 2 ●WEB

宮城県の「いま」を発信する「みやぎ復興情報ポータルサイト」。
NOW IS.取材班によるインタビューや著名人など、さまざまな書き手による、多角的な視点で情報を発信しています。

WEBサイト

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」では
復興に関するお知らせや復興の進捗状況、
復興に向けた取組など様々な情報を発信しています。

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから!
https://www.fukkomiyagi.jp

BLOG

● いわたかれん復興フォト

これまでの被災地訪問は100回を超える岩田さん。
「写真」に想いを込めて、被災地の状況を発信しています。

PROFILE
岩田 華怜 *Karen Iwata*

AKB48の元メンバーで、現在女優として活躍する岩田華怜さん。
被災地の「いま」を伝えたいと、被災地を巡り自ら撮影。
「写真」に想いを込めて発信しています。

山元いちご農園のカフェで撮影したイチゴたっぷりのパフェ。岩田さんおすすめのグルメやスポットも紹介しています。

● 宮城のおいしいをお取り寄せ

東京を拠点に活躍する黒羽さん。
宮城の味をお取り寄せして、レポートします。

PROFILE
黒羽 麻璃央 *Mario Kuroba*

映画やドラマ、舞台で活躍している俳優の黒羽麻璃央さんは、2019年1月に「みやぎ絆大使」に就任。お取り寄せできる被災沿岸地区の「おいしい」を発信していきます。

「このゆびとまとプレミアム」という名前のトマトジュースを食レポ。栄養満点でおいしいジュースに感動する黒羽さんです。

● SAMURAI JAPAN PROJECT

宮城を世界へ

日本の魅力を世界に発信するインスタグラマー。
歩いて見つけた宮城の魅力を紹介します。

PROFILE
SAMURAI JAPAN PROJECT *Rake*

NOW IS.Vol.37に登場したSAMURAI JAPAN PROJECTのRakeさん。
宮城県沿岸部の魅力を発信しています。

塩釜水産物仲卸市場にて。日本縦断中のRakeさんが、インパクトのある写真とオフショットとともに宮城のおもしろさを伝えます。

情報発信の取組 3 ●その他

全国の方々からの支援と励ましに支えられながら、復興の歩みを進めている宮城県。
今もなお復興に向けて取り組んでいる人々の姿を、想いや決意とともにポスター・パネルで表しています。

宮城の「いま」を伝える ポスター・パネル

復興にかける想いや決意を全国に届けます。

復興の過程で生まれた新たな“価値”や“教訓”を未来に活きる情報として全国に発信するため、復興に向けた取組を行う方々をポスターにして全国の公共施設等に掲出しているほか、パネルにしたものをイベント等で展示しています。

※パネルの貸出しも随時受け付けています。

イベントでの展示の様子。

ポスターは、宮城県内はもちろん、全国の公共施設や公共交通機関などに掲出しています。震災から立ち上がる人々の姿と想いをご覧ください。

10枚で構成されるパネルには、被災直後と現在の様子を写真で見比べる特集や、復興の様子をデータで紹介する特集、地元の方々の想いを伝える特集などがあります。

SNS

SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地の「いま」を発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。
ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。